

関東ウェブの会の活動縮小にあたって

関東ウェブの会はこのたび、15年間続けてきた活動を縮小することにいたしました。

私たち躁うつ病者の将来や困難を共有できる数少ない場を縮小することは、後ろ髪を引かれる思いです。しかし私たちを巡る状況も大きく変わっていく中、これまで長きにわたって培ってきた魂を種火として守っていく必要を痛感しているからこそ、ぎりぎりの決断を行なうに至りました。

会の発足当時、私達は躁状態では社会的基準から外れることも多く忌み嫌われ、鬱に陥ると怠け者として蔑まれてきました。周りに理解者も同病者も見つからない中で、過酷な孤独にさいなまれてきたのです。仲間が集まるとすぐ意気投合し、会を作るとなると、みんなで一緒にやろうと、それは暗黙の了解のようなものでした。

会が発足すると、躁うつ病特有の躁状態でのトラブルも生じ、会に迷惑をかける人には遠慮してもらおうという傾向も出てきました。しかし、それこそが躁うつ病の性格であることから、誰一人排除しないということを強く確認してきたことが、会を継続する大きな力となりました。最重度の方を含むすべての躁うつ病者に開かれた会であるという会の精神と合わせて、特に就労に向かう人とそれ以外の人による分断の問題を乗り越える基盤ともなったのです。

そうした中、関東ウェブの会は、後に設立されたNPO法人ノーチラス会が存亡の危機に陥ったとき、当事者自身の手で存続させるために力を尽くしましたが、その考え方を排除したノーチラス会は、結局精神科医が私物化することになりました。その経験から、当事者自身が会の中心でなければならないという考え方をさらに強くし、それは会員制の当事者会となる際に大きな教訓となりました。

当事者会としての活動の中で、私たちは「自らの手で人々と共に幸せに生きることができると創り出していくこと」を会の目標としてきました。その中で学んだ重要なことに、歴史的な「障害者観の転換」があります。障害の原因は障害者の側にあるのではなく社会の側にあること、現代の社会が「生産性」を最も重視するがために、基本的に生産性の乏しい障害者は社会の邪魔者として排除され、対等に扱われない状況が生まれていると気づくことができました。

以上のように設立以来15年間、躁うつ病者全体を視野に入れ、懸命な活動を通して共に内容を培ってきた一方、この内容と参加者の皆さんの会に対する想いや期待との間にギャップも生じてきました。

その要因には、会を巡る状況の三つの大きな変化があります。一つは「障害者就労」が拡大したこと、もう一つは双極性障害という概念が広がったこと。さらにもう一つはインターネットを利用した交流の中心が掲示板等を中心とする交流サイトからSNSなどに移行してきたことです。

「障害者就労」が拡大してきた中で、とりあえずそれに応じられる当事者が増えた一方で、重度の障害者は取り残されている状況があります。軽躁状態で双極性障害と診断される人も増え、当事者の病状や困難、問題意識も多様化してきました。SNSの普及などによって、躁うつ病者自身も手軽に人と繋がることのできる状況になりましたが、仲間と集まる場としての当事者会活動に対する意識も変わってきました。その結果、就労する参加者が増えてきたこと相まって活動の中心となるメンバーが減少していくという状況も生まれました。

このようなことから、これまでの内容を維持しながら、これからも参加していただく方々の期待に応えていくことは、とても困難な状況となってきました。これまで会を支えてきて下さった多くの方々の積極的な意見を踏まえて事務局でも検討を重ねてきましたが、将来社会の状況が大きく変わり、15年間の活動で培ってきた歴史的な内容が必要とされるまで、活動を縮小しながらも内容を薄めることなく、種火を残しながら活動していくことが関東ウェブの会のあり方だという結論に至りました。

活動縮小にあたり、これまでご協力をいただいた皆さんに心からの感謝を表しますとともに、今後とも関東ウェブの会をあたたく見守っていただきますようお願いいたします。